

## 7. 災害の記憶伝承の取組

### 外所地震（宮崎市島山地区）

外所（とんどころ）地震は1662年10月31日（寛文2年9月20日）未明に発生し、地震は日向灘沖でマグニチュードは7.6、最大震度は推定6でした。死者は約200人、約3800世帯の家が壊れ、宮崎市の木花地区を中心にして宮崎県沿岸のほぼ全部に被害があり7つの村が水没しました。

その後、この大きな災害を後世に伝えるために、供養碑が建立されました。

供養碑は右から1基目と2基目は壊れており、3基目は1805年、4基目は1862年、5基目は1925年、6基目は1957年、7基目は2007年（平成16年）に建立され、今は50年に1基を建立して災害の記憶を伝承しています。



写真7.1 外所地震供養碑



写真7.2 350回忌供養費

ここに外所大地震  
 三百五十回忌追悼供養を通  
 し、諸々の犠牲を忘却する  
 ことなく、大自然にたいし  
 畏敬の念を持つことと、防  
 災の大切さを後世に伝え  
 いたがため、この供養碑を建  
 立した。

昭和32年から50年後の平成19年に建立され7基目となっており、地域の住民が供養碑の敷地をいつも管理しています。

まさに、災害の記憶を伝承している実例といえます。

### 【島山地区の取組】

現在は防災訓練として、避難訓練や図上訓練、研修会などを行い、日頃から活動していますが、地区全体としてはまだ十分ではない状況です。しかしこれを継続していくことが今の私たちの努めであり、責任でもあります。

（当時の自主防災組織の副会長談）

## 7. 災害の記憶伝承の取組

### 新燃岳の噴火（高原町狹野神社）



写真7.3 新燃岳大噴火乃碑

#### 新燃岳大噴火乃碑

新燃岳の噴火から6年。

高原町狹野神社宮司は、噴火に伴う避難により神社を離れる心苦しさを経験したことから、噴火による様々な被害を風化させず、後世に伝えていくために、関係者の協力を得て「新燃岳大噴火乃碑」を建立しました。

### 五ヶ瀬川の畳堤（延岡市北町）



写真7.4 畳堤記念碑

#### 畳堤記念碑

畳堤は五ヶ瀬川を含め全国の3つの河川に存在している珍しい特殊堤であり、現在980mの長さがあります。

大正から昭和の初期に造られたもので、堤防上に橋の高欄風のコンクリート枠で、上から畳をはめ込む7cmほどの隙間があります。洪水時には住民が自らの畳を持ち寄ってこの隙間にはめ込み、水を防いできました。

先人の知恵による住民の協力からなる治水対策といえます。



写真7.5 畳堤記念石像

